

北海道医歌人会詠草

余命

札幌 小国 孝徳

吾が書齋古書肆の如く匂ふにも漸く夏の初めとなりぬ

「又一人気の良い奴が逝つたな」と高血圧と低血圧が歎き合つてゐる
(悼植木美恵児君)

有りがたき説教ならむをばそと呟くとき老僧の声

うつらうつらとソファにまどろむ時多し斯くの如くに“Das Ende”来む
ゆらゆらと立房揺るるライラック焦るな慌てるな余命尽きしにあらず

慈悲の門

札幌 古屋 統

ホームレス締め出されたる回廊に人影寡なし雨の四天王寺

七度潰え八度なほ建つ五重の塔コンクリートの階をスリッパに昇る

玄奘記壁画の入り口執拗に灯明を売る小雛の女

三百円納めて雨の築山と池駆け巡る極楽浄土の庭

振り返り両掌合わせて西の門去る老夫婦慈悲の相あり

閉校式

美唄 吉村 誠治

最後なる卒業生は少なきも千百十八名の看護師育つ

孫二人あると言ひつつ教へ子は故郷の名酒土産にくるる

旺んなる炭砒支へし四十五年労災看護学校使命終へたり

国家試験全員合格続けたり全寮制度の講議懐かし

全国に散らばり励む教へ子の新たな門出乾盃に込めて

スカンクキャベツ(水芭蕉)

札幌 山口 康徳

いみじくも名づけたるかな外国はスカンクキャベツと形容恐し

日当りを求め根伸しその次に幹移動さす奇異な植物

ロボットも進歩せるかな中華料理をも瞬時に造る手際の良さよ

外国に蔓延しるる銃社会虎視眈々とわが国狙ふ

検挙率低下にあがる非難うけ公費もて悪を燻すプランも